

素材市況 重み増す中国

汎用品では過剰な供給能力を警戒される中国。しかし高付加価値品に目を転じれば、商機に富む魅力的な市場でもある。事業リスクは低くはないが、旺盛な需要に吸い寄せられるように日本企業の進出は完成品から素材にまで広がってきた。

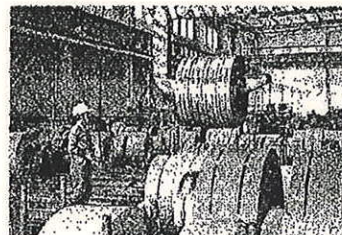
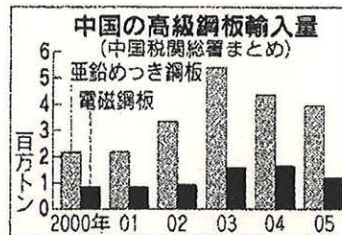
自動車や電子部品などの産業集積が進む広東省広州市。中心部から高速道路を約一時間走ると巨大な圧延工場が姿を現す。JFEスチールが五％、地元の広州鋼鉄が四九％を出資し、昨秋か

伸びる高級品需要

日本勢、現地供給を加速

高級鋼材である亜鉛めっき鋼板の量産を始めた「広州JFE鋼板」だ。生産能力は年間四十万ト。約八割は大幅な増産が見込める自動車向けに売り込む」と笠井総経理は力を込める。

広州ではホンダ、日産自動車に続いて二〇〇六年からトヨタ自動車も現地に生産に乗り出した。進出した日系三社の関連部品メーカーは百社を超え、鋼板市場としての魅



コイルセンターでも高付加価値品特化型の拠点整備が進む(広州市順徳区美達王鋼材制品)

背景には、日系メーカーの進出に加えて欧米系など外資の需要も取り込めるとの判断がある。

実際、〇五年に生産を始めた新日本製鉄「アルセロール・ミタル」と中国最大の鉄鋼メーカー、宝山鋼鉄(上海市)の合併

出と他社の需要拡大を合わせれば、現在年間約九十五万トの自動車用鋼板の販売量を百五十万ト程度にまで伸ばせるはず」と高付加価値鋼材では鋼板を加えて高付加価値品を加工するコイルセンターの進出も相次いでいる。

メタルワンは〇五年十一月に広州近郊で自動車専門の「広州市順徳区美達王鋼材制品」を稼働。昨年五月には上海近郊にステンレス専門の「美達王精密金属」も立ち上げ、超薄型鋼板などの価格が汎用品の一・五〜二倍、それでも「IT(情報技術)関連部品を中心」にニーズは多い」と原田直行総経理は指摘する。

高級品の供給拠点は鉄鋼にとどまらない。東ソール樹脂を生産する「東曹(広州)化工」を稼働させる。照準は「毎年二ケタ成長が続く」(門脇進・総経理)樹脂フィルム。輸出に加えて現地生産にも乗り出すことで、拡大する高付加価値品需要に対応する計画だ。

中央と地方の政策の違いや突然の方針変更など中国ビジネスには苦勞も多いが、ひも付き(特定需要向け直接販売)が主力の高級品は市況に左右されにくい点でも利点は大い。欧米系に後れを取らないとする日本の素材企業の進出は一段と加速しそうだ。

日本経済新聞 2007.01.10(朝)

商品部 小田原記者に
 12月1日「美達王精密金属」
 12月7日「広州市順徳区美達王鋼材制品」
 を訪問取材頂いたもの。

メタルワン関連記事が 07年 1月10日付
日本経済新聞に掲載されましたので
 お届け致します。よろしくご査収下さい。
 広報ユニット